

龍谷大学山岳会 GW 合宿報告書

期間：2017/5/3～6

山域：北ア穂高岳・岳沢周辺



参加者：原村(L) 前原(食糧) 林(記録)

ゲスト：東(食糧) 大木原(記録)

行動記録

5/3 晴れ 気温 10℃

8:00 河童橋集合 8:35 出発 8:50 岳沢登山口 12:00 岳沢小屋

12:40 BC 設営完了 13:30～14:30 周辺偵察 19:00 就寝

予定より 30 分早く出発。樹林帯はほぼ残雪は無し。岳沢に出る手前から残雪が現れる。岳沢に入りトレースを頼りに歩荷。ペース上がらず。30 分間隔で休憩を入れる。漸く岳沢小屋に到着しテント設営。そして、ビール。その後コブ沢の出合いまで偵察。

5/4 晴れ

2:30 起床 4:55 BC 出発 6:00 畳岩尾根末端 11:50 撤退

17:00 天狗沢 18:00BC 着 20:30 就寝

畳岩尾根の取り付けを目指し、コブ沢を上がる。コブ尾根への取り付けの為にトレースを利用。尾根末端から直ぐのルンゼに取り付く。次第にメンバーの間隔が開く。尾根に出る手前でロープを垂らす。斜度のあるトラバースでロープを張り尾根に出る。ここからは尾根通しに雪稜(面)を進むが途中からメンバーの要請でロープを出す。リーダーの説明不足やメンバーの理解不足などの要因でスムーズにロープを延ばせず。どうにかこうにか、畳岩を間近に仰ぐところまで登る。

しかし、時刻が 12:00 近くの為にここから撤退することに決定。本来、撤退は同ルート下降が原則であるが、天候、日照時間を考慮し天狗沢側を下降。50M ロープを 2 本連結し 100M の懸垂下降を繰り返す。ちなみにアンカーはスノーバー 3 本。ラストはそれらを

回収しダブルアックスで下る。途中、県警のヘリが心配そう？に3度上空に飛来。その日、岳沢では2件の遭難事故が発生していた事を帰幕後知る。岩場や雪の亀裂を回避し、天狗沢に降り立つ。平均年齢52歳、いきなりの13時間行動で皆よれよれ。(笑)
明日は起きてから考えようとしシュラフにもぐりこむ。



5/5 晴れ

5:20 起床 8:00BC 出発 13:00 帰幕

林OB お出迎いの為前原OB にテントキーパーをお願いします。コブ尾根の予定であったがメンバーの雪上歩行訓練を目的とし西穂高沢を目指す。コブ沢、天狗沢、間ノ沢を越え西穂高沢に取り付く。意識的にキックステップで登らせる。しばらく上がると上部より小さい雪崩。なんとなく気味が悪いので横の尾根に退避。その後、頻繁に雪崩が発生し早々に帰幕とする。(実は、本当の西穂高沢はもう1つ支尾根を越えたところであった。情けなや)尾根上で歩行訓練を行う。尾根からの下降中メンバー2名が間ノ沢へ滑落。雪は腐っており、尾根の末端付近からの滑落であったため沢の出合いの暖傾斜帯で自然停止。帰幕途中天狗沢出合いで林・前原OB と合流。

帰幕後、雪練のやり直しだと意気込むも目の前の「ぷしゅー」には勝てず、スマホで明日の天気を確認すると言いつに使ってくださいと言わんばかりに日本列島を挟むように2つの低気圧が接近中。泣く泣く明日下山とする。ジョニ黒、穂高ワイン、日本酒「酒のトリコニー」を堪能。

5/6 雨

5:00 起床 6:45 岳沢発 8:17 岳沢登山口 8:40 上高地

予想より早く雨が降り出す。アイゼンを装着し岳沢を下る。休憩1回で上高地に到着。バス移動、平湯温泉にて解散。

文責：原村

以下 写真記録





